

【視察調査報告書】

会 派 名	レボリューション八王子
参 加 議 員	【議員】 1 名 及川 賢一
日 程	令和 7 年（2025 年）2 月 5 日（水）～2 月 6 日（木）
詳 細	
視察日及び 視察先	2 月 5 日（水）三重県 いなべ市 一般社団法人 グリーンクリエイティブいなべ
視 察 内 容	グリーンインフラ推進事業における民間事業者（グリーンクリエイティブいなべ）との連携および、にぎわいの森の取組成果について
概 要	三重県いなべ市は、三重県の最北端に位置する面積 219.83 km²、人口 42,000 人余りの自治体である。 2014 年 2 月に策定した、「いなべ市新庁舎整備の基本方針」の中で、単なるオフィスではなく、観光や防災、まちづくりの拠点、災害に強い場所、地理的中心としての機能を持った新庁舎と、にぎわいの森をつくることを定めた。 新市庁舎の建設を地方創生のチャンスと捉え、市長の旗振りのもと、2015 年 2 月に「いなべ創生事業グリーンクリエイティブいなべ」の施政方針を策定。 人口減少の中、生き残るまち・選ばれる自治体になるべく、「交流人口の創出」「関係人口の創出」「市民協働・シビックプライド」を生み出すことを目的に、2015 年 4 月からグリーンクリエイティブいなべの事業（キャンペーン事業、ローカルセンスショップ事業、生業事業、アグリファーム事業、アウトドアライフ事業）を開始した。 また、にぎわいの森活性化計画（2016 年～2020 年）の取組として、都市部において、いなべ市への期待感を高めながら人を巻き込み、地域での生業づくりを後押ししていくとともに、まちづくり組織の検討委員会を立ち上げ、グリーンクリエイティブいなべの設立に向けた準備を進めていった。 その後、2019 年 5 月に新庁舎の開庁とあわせて、にぎわいの森がオープン。 翌 2020 年度からは、SDGs の概念も取り入れた「Inabe にぎわいプラン the road to 2024」と連動させる形で、グリーンクリエイティブいなべの事業を開始し、グリーンクリエイティブいなべを理念としたまちづくりが推進されることになった。 2021 年には、グリーンクリエイティブいなべを法人化し、高い意識を持ったまちづくりの取組を継続的におこなっている。 ・にぎわいの森について にぎわいの森はいなべ市役所に隣接する、商業用テナントを備えた 1.2ha の森である。森の中に点在する商業施設のテナントには地域食材を使ったカフェや食品店、パン屋、食肉加工品店、物産品等を扱うセレクトショップなどが入居する。 農業振興や、生業・就農促進、商業・観光振興、市民協働の促進など、まちづくり、ひとづくりの拠点として活用できるよう、商業施設としての機能の他にも、毎週末開催される

	マルシェや市民主導の各種イベントに活用できるスペース、観光情報の発信基地など様々な機能を持っている。 森の中には多種多様な樹木が植えられ、森全体を「グリーンインフラ」「SDGs」の拠点として活用しており、貯留した雨水の再利用や、地中熱を活用した空調なども、森林整備とあわせて導入されている。 にぎわいの森への年間来場者数は約 35 万人。 経済波及効果は 3 億円と試算されている。 ・一般社団法人グリーンクリエイティブいなべについて 一般社団法人グリーンクリエイティブいなべは、行政課題の理解と行政と部門との連携を促す「公共性」と、迅速性と柔軟性、市民・顧客視点を持った「企業性」の双方の利点を持った法人として、令和 2 年 4 月 1 日に設立された。 資本金の 1000 万円は、全額いなべ市から出資され、職員数は 11 名(市職員 3 名、民間採用職員 5 名、パート職員 3 名)。 「地域商社機能」「DMO 機能」「まちづくり機能」「情報発信機能」の 4 点を法人の機能として掲げ、市からの委託事業の他にも自主事業もおこなっている。 主要な事業は以下のとおり。 -にぎわいの森の管理・運営、プロモーション業務 -いなべ市の産品を取り扱うセレクトショップの運営 -地域への人材・企業の巻き込み -地域への誘客(地域限定旅行業) -新規施設開発、新規事業開拓支援 -官民連携の窓口
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	今回、いなべ市を視察したのは、八王子市が整備を進める「集いの拠点」の運営における民間と行政の効果的な連携手法を検討するために、一般社団法人グリーンクリエイティブいなべと、いなべ市役所の連携体制を学ぶことであった。 グリーンクリエイティブいなべの成果としては、設立前にいなべ市が掲げた「交流人口の創出」「関係人口の創出」「市民協働・シビックプライド」の 3 つの方針をしっかりと達成しており、人口 42,000 人余りの市に、年間 35 万人もの来場者を呼び込んでいる。 三重県の最北端の山際に位置し、公共交通の利便性は良くないものの、三重県の住みよい都市ランキングでも 1 位になるなど、選ばれる自治体になるという目標に向けても成果を上げている。 いなべの森に店舗を構える各ショップは、市外、県外にも店舗を持つ実力派の人気店であり、いなべ市に魅力を感じて入居してくれているとのことで、地元食材の活用や、市内での雇用創出、市内外からの来客の呼び込みなど、様々な面でいなべ市の力になってくれていると感じた。 それらの店舗の開拓や地域との連携、いなべ市内における新たな店舗の開業支援にグリーンクリエイティブいなべが取り組んでいるのだが、特に参考にしたいと感じたのは、その運営体制についてである。

法人の職員は、いなべ市役所の職員(出向)と、民間採用によって構成されており、オフィスはいなべ市役所に置かれている。

法人の主要な事業は、にぎわいの森の管理・運営を含めた、いなべ市からの委託事業や補助金事業であるが、それ以外にもショップの運営や観光業、他の自治体も含めたコンサルティング業なども手掛けている。

一般的に、まちづくりの事業や、社会貢献事業、SDGs 関連事業といった類の事業は、マネタイズが難しく、NPO 法人などの民間事業者は、常にその収益性と社会性のバランスに悩みを抱えることが多い。

グリーンクリエイティブいなべでは、社会的に意義のある事業は市からの委託でおこないつつ、自主事業として収益性を追い求めることができ、双方の事業を市の職員と民間事業者が同じチームで手掛けている。

そのため、地域や社会のためになるが収益性に乏しい事業に対してどう取り組むか？といった悩みを抱えることはなく、行政ではなかなか踏み出しにくい商品や企画の開発、販売などの投資を伴った収益事業にもスピード感を持って取り組むことができている。

これはまさに法人設立時に掲げた「公共性」と「企業性」を実現するための体制であり、市役所だけでも、民間だけでも成しえない、双方の強みを活かせる体制だと感じた。

現在、グリーンクリエイティブいなべでは、環境事業に対する民間投資やクラウドファンディングなど多様な手段での活動資金の獲得にも取り組んでおり、にぎわいの森に続く新たなグリーンインフラの整備に向けた準備を進めているという。

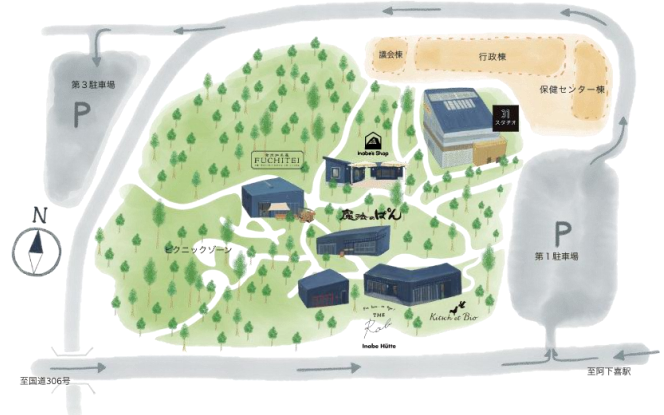
民間からの投資は、集めるのに苦労されているとのことだったが、にぎわいの森での成功事例をもって更なる資金を獲得し、新たなエリアへの社会的、収益的な投資をおこなっていかうとするグリーンクリエイティブいなべの姿勢は、まちづくり視点でのディベロップメントやエリアマネジメントにおいても有効性を感じさせる事例であった。

八王子市においても、今後の民間との連携を考える上では、「市役所がやること」と、「民間に任せること」の選別だけではなく、「市役所と民間と一緒にチームを組んで取り組むこと」という選択も提案していきたいと感じたし、その上でいなべ市の事例は大いに参考になる取組であった。

視察の様子



森の様子



にぎわいの森 MAP GCI HP より抜粋

視察日及び 視察先	2月6日（木）岐阜県 岐阜市 みんなの森ぎふメディアコスモス
視 察 内 容	メディアコスモスにおける「シビックプライドプレイス」事業の取組と成果について
概 要	岐阜県岐阜市は岐阜県の中南部に位置する面積 203.6 km²、人口 30 万 4000 人余りの中核市である。 今回視察したシビックプライドプレイスは、岐阜市役所に隣接するメディアコスモスの取組である。 メディアコスモスは、図書館×市民協働による価値創造を目指して2015年に整備された、岐阜市の施設であり、「屋根の付いた公園のような、多様で居心地の良い場所。ひとが集い、憩い、豊かな対話が始まるサードプレイス」をコンセプトにした、滞在型の図書館と市民の協働・市民活動のサポート機能を持った複合文化施設となっている。 ・メディアコスモスについて 施設の概要 敷地面積：14,725 m² 建築面積：7,530 m² 延床面積：15,444 m² 機能、設備：市立中央図書館(蔵書数約 90 万冊、座席数 910 席)、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、市民ホール、展示ギャラリー、キッズスペース、各種交流スペース、スタジオ、オープンテラス、シビックプライドプレイス 建築的特徴： -オープンな空間：建物全体に壁が少なく、一体感を生み出すような視覚的関係の創出 -木製格子屋根：構造面、意匠面、環境面で性能を持つ県産ヒノキを使った木構造屋根 -グローブ：自然光を室内に柔らかく拡散。開閉式の水平窓から、自然の風を取り入れる -環境配慮：地下水、太陽光・熱の利用、輻射式冷暖房により消費エネルギー量 1/2 を実現 経緯・経過 2004 年 岐阜大学医学部・附属病院の移転に伴い跡地利用に関わる市民意見を募集 2005 年 基本構想を策定 2010 年 基本計画を策定 資質評価型プロポーザル方式で伊藤豊雄建築設計事務所に選定 2011 年～2014 年 基本・実施設計、工事 2015 年 開館 2022 年 library of the year2022 大賞を受賞 2024 年 来館者数 1000 万人を達成 事業費 事業費計：119.5 億円 土地取得費 26.7 億、設計費 3.3 億、建設費 76.3 億 財源内訳：国補助金 34.1 億、市債 59.7 億、基金 19 億、一般財源 6.4 億、県補助金 0.3 億

役割

メディアコスモスでは、果たすべき使命として「中心市街地の活性化に資すること」「子どもからおとなまで多様な人々の対流を持続的に起こすこと」「シビックプライドセンターになること」「堅苦しくなく、誰もが気軽に集えるまちの縁側になること。」の4点を掲げている。

多様な関係性のストックを未来の文化的資産と捉え、その創出に向けて多様な人と情報、まち、ものを繋ぐために、市民と協働しながら多種多様な事業取り組んでいる。

運営体制

メディアコスモス事業課、図書館、市民活動交流センターの3課合計121人

メディアコスモス事業課(正規10名、会計年度3名、パート2名)

市民活動交流センター(正規15名、会計年度1名、パート12名)

図書館19名(正規19名、会計年度5名、パート54名)

・シビックプライドプレイスについて

シビックプライドプレイスはメディアコスモス1Fに作られたコーナーで、シビックプライドの醸成を目的に2021年に開設された。

岐阜市では、「人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち」になることを、まちの将来像に掲げ、その実現に向けたまちづくりの基本的な考え方としてシビックプライドの醸成を掲げている。

その拠点として、メディアコスモスをシビックプライドセンターとして位置づけ、2020年に開設したシビックプライドライブラリーと合わせて、シビックプライドの醸成に繋がる事業をおこなっている。

シビックプライドプレイスは以下5つの要素で構成されている。

1、まち歩きステーション

岐阜市民だからこそ知っている、岐阜らしい魅力スポットを紹介。店舗や史跡などを選んで、自分だけのオリジナルさんぽ地図がダウンロードできる。

2、ぎふ歴史ギャラリー

古地図に紐づけられた古写真や歴史的資料をタッチパネル操作で自在に表示。貴重な写真や思い出に残る懐かしい写真から、岐阜の歴史を重層的に辿ることができる。

3、岐阜な人

ユニークな活動を続ける市内の工芸作家、川漁師、デザイナー、商店主、企業人等の情報を、岐阜市ゆかりの過去の偉人・文化人とともにカードで紹介する。

4、セレクトブックシェルフ

岐阜に関する書籍や資料を配架し、2階図書館のシビックプライドライブラリーと連携した、深い学びにつなげる。

5、シビックプライドボード

	シビックプライドプレイス全体のシンボルとなる映像ディスプレイ。 予算 シビックプライドプレイスの運営に関わる年間の予算は約 285 万円(2023 年度決算)。 まち歩き、トークイベント、各講座の運営など、シビックプライド事業の予算が 160 万、 その他にシビックプライドプレイスとホームページの保守に約 125 万円をかけている。
所 感 等 (意見・課題・ 本市への反 映など)	今回、シビックプライドプレイスを視察したのは、八王子市が整備を進める集いの拠点の図書館および郷土資料館の事業を、いかにシビックプライドプレイスの醸成と、その先の市民協働に繋げていくかを学ぶためであった。 シビックプライドプレイスでは、地図や写真、人物を通して、岐阜市の現在と歴史について学ぶことができる。 それらのコンテンツや資料でも十分な知識を得ることができるのだが、より詳しく学びたい人は、シビックプライドプレイスに置かれた書籍や資料を閲覧できるとともに、2F の図書館に設置されたシビックプライドライブリーを利用することで、さらに学びを深められるようになっている。 この一連の流れは、八王子市の郷土資料館と図書館を連携したシビックプライドの醸成に大いに参考になると感じた。 次に、まちの現在と過去を知ることによって郷土愛を深め、シビックプライドを抱いた市民と、具体的にどのように協働を進めて行くかという仕組みについてであるが、メディアコスモス内には市民活動支援センターが置かれており、メディアコスモス自体が市民活動の拠点として機能している。 そのため、まちづくりなどの活動に関わりたと思った市民はスムーズに市民活動支援センターや、その先の市民団体等に繋がることできる。 またメディアコスモスでは、メディア編集講座という、市民編集委員が ZINE を作成する講座を開催するとともに、メディアコスモスの会員になった市民団体が自由に使える印刷室を施設内に整備するなど、市民がまちの新たな情報発信者として活躍できる環境も整えられている。 メディア編集講座には、現在 83 名が参画しており、シビックプライドプレイスのコンテンツ制作に協力してくれているという。 多様な関係性を構築するために、「つないでつないで、つなぎまくる」という館長の言葉のとおり、市内のあらゆる市民活動の情報がメディアコスモスに集められるとともに、メディアコスモスから絶えず新たな情報が発信されていくのは、シビックプライドの醸成とその先の市民協働を生み出す、好循環な仕掛けであると感じた。 今回の視察を通じて学んだ、図書と郷土史の連携によるシビックプライドの醸成方法については、八王子の集いの拠点整備においても参考となる取組であったし、シビックプライドを醸成した先にある市民協働に向けた仕掛けも、大変魅力的な取組だと感じた。 一方で、八王子市の集いの拠点整備においては、PFI 事業ということもあり、図書館と郷土資料館以外の市役所の所管がどのように関わるかについては、決まっていない状況である。 メディアコスモスの事例から、市民協働関連の所管と連携することの効果を学ぶことが

できたので、八王子市においても集いの拠点の運営にあたっては、市民協働の関連部署との連携をしっかりと強化していくよう提言していきたいと思う。

視察の様子



市民活動団体が使えるデスク



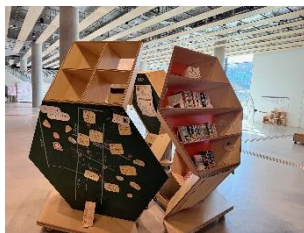
開放感のある壁面



市民活動やまちに関する情報発信



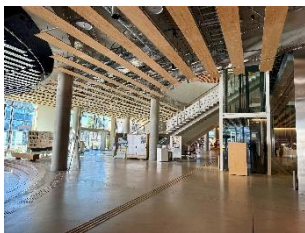
シビックプライドプレイスの什器とセレクト本棚



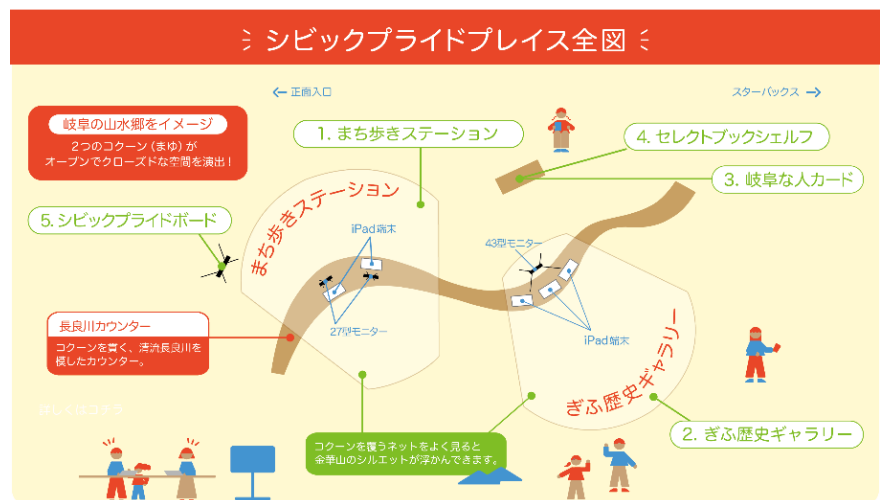
懇談、相談スペース



木製の屋根



壁面を減らしてイベント利用可能な空間を創出



メディアコスモス HP より抜粋